



北のシュプール

第517号

発行 北海道勤労者スキー協議会機関紙部 編集責任者 金濱 茂
 札幌市白石区平和通3丁目北3-13-202 tel&fax:011-784-3272 郵便振替 02700-7-48231
 ホームページ: <http://www.wsah.info/> e-mail: wsaj.hokkaido@gmail.com

創立45周年の節目に感謝を込めて 祝賀会を開催いたしました

～50周年の大会に向けて新たな一歩～

道スキー協創立45周年記念祝賀会実行委員会

北海道勤労者スキー協議会は、2026年12月26日に創立45周年の節目を迎えます。この記念すべき節目に先駆けて、7月5日(日)、札幌サンプラザ「玉葉の間」にて「創立45周年記念祝賀会」を盛大に開催いたしました。当日は創立当時ご尽力いただいた方々を交え、各クラブの代表者や役員、総勢45名の方に出席いただきました。

迫力のオープニングから、温かい式典へ



祝賀会の幕開けを飾ったのは、「本郷 和太鼓クラブ」による力強い演奏です。さらにおめでたい獅子舞も登場し、会場は一気に華やかなお祝いムードに包まれ、大迫力のパフォーマンスに出席者一同大いに盛り上がりました。

ここから祝賀会は、終始アットホームで温かい空気の中

へと進んでいきます。その心地よい雰囲気の中で、道スキー協の礎を築き、長年にわたり発展やスキーの普及に貢献された方々への「感謝状授与式」が執り行われました。



これまでの功績と敬意を表し、武田会長より一人ひとりに感謝状が授与されました。当日は退会されている功労者の方々にも広くお声がけをし、出席された8名の方へ、会場全員からの温かい拍手とともにお渡しいたしました(※当日ご欠席の16名の方へも、後日改めて感謝状をお贈りいたしました)。

受領者を代表して大塚名誉役員から、創立当時の熱い想いやこれまでの歩みを振り返る素晴らしいご挨拶を頂戴し、45年という歴史の重みと、先輩方が築いてこられた絆を改めて実感する感動的なひとときとなりました。

歴史を振り返り、未来へ繋ぐ記念のビデオ&写真

20年の歩みと新たな旅立

と移り変わり、出席者同士の笑顔と歓談の輪が広がりました。会の中盤では、20周年記念の際に制作、編集された「20年の歩みと新たな旅立ち」のビデオが上映されました。スクリーンに当時の活動の様子や、若かりし頃の会員の姿が映し出されると、会場からは「懐かしい!」「若い!」といった歓声と笑みがこぼれ、一瞬にして当時の思い出がよみがえりました。また、永山修さん、奈良孝一さん、今野重信さんの3名の方々にスピーチをいただき、当時を振り返っての大変貴重なお話に会場全体が真剣に耳を傾け、深い感動と感謝の温かい拍手に包まれました。



宴の締めくくりには、ご出席いただいた皆さん全員で笑顔の記念撮影を行い、さらなる親睦を深めつつ、盛会のうちに閉会いたしました。

授与式に続き、北海道スポーツ連盟の島崎理事長より、温かいお祝いのお言葉とともに乾杯のご発声を頂戴いたしました。グラスが高らかに掲げられると、会場は一気に華やかな祝宴へ



ゲレンデで見つけよう! 45周年の目印



祝賀会でお配りした45周年の「特製オリジナルキーホルダー」は、後日、現指導員の皆さんにも贈呈いたします。ぜひ皆さんのウェアやバックパックに付けてゲレンデへお出かけください。白銀のゲレンデでこのキーホルダーを見かけたら、それは45年の歴史を共に歩んできた「仲間の証」です。来るシーズンも、各地の雪山でたくさんの「45年の笑顔」と出会えることを楽しみにしております。

50周年の大台へ向けて

45周年という長い歴史を繋いでこられたのは、創立メンバーをはじめ、これまで支えてくださった全ての会

員の皆さんのおかげです。この45年の歴史と伝統を大切に受け継ぎながら、次なる大きな節目である「創立50周年」に向けて、新たな一歩を踏み出してまいります。

今後もスキーマの魅力をより多くの方に伝え、地域のウィンタースポーツの発展と、安全で楽しいスキーマ環境の提供に尽力してまいります。今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



創立45周年 感謝状授与者(24名・五十音順/敬称略)

秋元篤子 伊藤陳良 今沢勲雄 今沢和子 大塚義孝 大田久男 今野重信 佐々木孝雄
 沢口正雄 島崎徳明 高桑 武 高橋秀雄 高橋みどり 但馬 彰 田附 豊 立岡一男
 永山 修 奈良孝一 浜谷洋治 本間慧子 村松 昭 山田 洋 横山正芳 渡辺幸子
 (※当日ご欠席された皆様のお名前も含めて掲載しております。)

みんなの声を乗せて、創立45周年のシーズンが始まります！ ～第22回代表者会議に38名が参加～

報告理事長 三浦裕子



第22回代表者会議は、7月5日(日)に札幌サンプラザ「柏の間」にて、Zoomを利用したオンライン配信を併設し開催されました。今代表者会議には、全道各地の17クラブ中15クラブから、代表者定数19名のところ17名(うち兼務1名)が出席。さらに会長、副会長、常任理事、理事、会計監査を含めた総勢

38名(うちZoom参加2名)が出席し、議長には、酒井智津子さん(スカディ)と前橋恵美子さん(ナイスミドルフレンド)が選出されました。

武田会長はあいさつの冒頭、イランのホルムズ海峡封鎖など緊迫する世界情勢に触れ、不透明な時代だからこそスポーツを通じた結束が必要だと強調。創立45周年の節目に当たり、会員の健勝と4大行事(常設・フェスティバル・クラブ対抗・夏季クラブ交流会)の成功へ向けて決意を述べ、特別なシーズンを全員で盛り上げようと呼びかけました。



続いて議案報告の後、討論に移り、「第24回総会開催日の記載漏れ」への指摘や「道理事会交通費（計3回分）」の具体的な内訳を求める質疑応答が行われました。これに対し、事務局より、総会の開催実績を改めて報告するとともに、交通費は年3回の対面理事会に要する経費である旨の回答・説明がなされました。その後クラブ代表者からの発言（要旨のみ）では、以下の意見が出されました。

ナイスミドルの新会長となられた櫻井さんから、会員の高齢化（60歳以上、特に80代が

30%）と退会者の増加という厳しい現状が報告されました。今後は「去る者は追う」意識で会員の引き止めを図るとともに、スポーツ店へのチラシ設置やHPの頻繁な更新、会長自らの巡回戦術で新会員拡大に挑む決意が示されました。また要望として、昨年「指導員養成修了証」を得た会員の意欲向上策や、11月の索道協会の早割などを活用したリフト券購入支援への要望が出されました。

今回初めて参加された（平均年齢が若いクラブ）グロウスキークラブの堀川さんからは「若者のスノーボード志向」や、スキーに対する「スタイリッシュさに欠ける」というイメージへの問題提起がなされました。ラジオパーソナリティの起用など地道な発信の必要性や、バッジテスト・指導員資格の魅力を若者にどう伝えるかという課題が語られました。同クラブの五十嵐さんから補足で、来年10周年を迎えるにあたり「年1回ほどしか滑らない一般スキーヤーの友人をどう誘うか」という、リアルな悩みが共有されました。

ぎやろっプスキークラブの表山さんからは、YouTubeの活用やホームページの刷新といったネットを通じた情報発信へ注力した結果、それを見た新規入会者が増えたという成功事例が紹介されました。「若い世代に負けない、どこでも滑れる魅力的なクラブ」であり続けることで、今後もさらに若者層を惹きつけていきたいという、力強く前向きな意気込みが語られました。

金浜事務局長からは、他県で発生した「命に関わる重大事故」に遭遇した経験を踏まえ、万が一の事態に備える重要性を強調。対策として、各自が例会時に携帯する「緊急連絡先カード」のひな形を作成し、シーズン前に各クラブへメールで送信・共有したいという具体的な計画が示されました。

スカディの菅さんから「夏季クラブ交流会」について告知がありました。今回は北村温泉にて1泊での開催を予定。「温泉に入りに来るだけの気軽な参加も大歓迎なので、ぜひ多くの会員に楽しんでほしい」と呼びかけがありました。

羊ヶ丘の奈良さんから、「フェスティバル」の運営に関しては、80代の熟練参加者から「かめさんコースでもついていくのが厳しかった」との実例が紹介され、誰もが安心して参加できるコース設定への見直しを求める要望が出されました。また、新年度予算に関しては、2026年度決算で予備費から検定会費用が支出された点に触れ、今後も継続して必要な経費であれば、2028年度予算からは予備費ではなく「指導員養成費」を増枠して正しく予算化すべきである、との財政健全化に向けた建設的な提言がなされました。

これらの活発な議論の後、活動報告、会計報告、予算案、活動計画案が無事に承認されました。会場とZoomのハイブリッド形式で遠方からの方にもご参加いただき、大変有意義な会議となりました。参加された皆さん、お疲れ様でした。

なお、会議内で出された貴重なご意見につきましては、今後、常任理事会や理事会などで継続して討論を行い、今後の課題として取り組んでまいります。

次回の「第23回夏季クラブ交流会 in 北村」でまたお会いしましょう！

お知らせです

道スポーツ連盟より

- ・テーピング講習会
エルプラザ 9月5日(土)18時30分～ エルプラザ 4階健康スタジオ1 講師:伊藤氏(伊藤整形)
- ・平和ラン&ウォーク 10月10日(土)
メイン会場を豊平川河川敷と中島公園として第10回を新たな取り組みとして行ないます